平成30年度　第２回徳島県総合教育会議　議事録

日時：平成30年11月22日(木)15:00～16:45
場所：県庁３階　特別会議室

１　開会

（司会進行）

＜山本部長＞

それでは，ただ今から，平成３０年度 第２回目となります「総合教育会議」を開催させていただきます。

なお，本日は，「総合計画審議会　若者クリエイト部会」の部会長でございます，青木様，近藤副部会長さん，近森委員さんのお三方にもご参加をいただいております。

それではまず始めに，飯泉知事よりご挨拶をお願いします。

（あいさつ）

＜飯泉知事＞

本日は，皆様方には大変お忙しい中，総合教育会議にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。

今の山本部長さんの方から話がありましたように，今回２部構成でお話をということでございます。と言いますのも，この「教育大綱」，いよいよ４年次計画の最終年次ということになったところでありますので，まずは大きく言うと，これまでの４年間の総括，そして今後に向けてと，この大きな二つを議論していく必要があると。そして，前回といいますか，最初にこの大綱を作った時にも，「若者クリエイト部会」の皆さん方から多くのご提言をいただきまして，そして，この教育大綱を取りまとめたと，こうした経緯もございますので，今回も青木部会長さん，また近藤副部会長さん，また近森委員さんにもぜひ積極的なご提案をいただければと思います。こちらが前半と。そして，後半は，今後の総括とそれから今後の方向について教育委員さんたちを中心としてお話をいただければとこのように考えております。

いよいよ来年の10月，消費税が10％に上がる，これを受ける形で「幼児教育の無償化」，この話が進もうとしているところであります。

徳島県におきましては，先取りをさせていただきまして，第二子については，３歳から５歳までは幼保を問わず無償化を，そして，０歳から２歳，ここは国も対象にしていないところでありますが，ご家庭で保育をされている皆さん方には子どもさんのお誕生日毎にバウチャー，いわゆるクーポン券を差し上げようと。これによりまして，一時預かりであったり，あるいは助産師さんに産後のことの様々なご相談をという場合であったり，予防接種なども含めてご支援をしていこうという形で進めているところであります。

そうした意味では，教育のあり方がやはり根本から大きく概念は変わっていく，こうしたこと。またさらには，スポーツ・文化については言うまでもなく，来年はラグビーのワールドカップ，日本で開催となりますし，再来年は東京オリパラが開催をされる。こうしたことで，この日本の教育環境というものが大きく変わろうとしているところでありますので，こうした点も踏まえていただきまして，今回の総括とそして今後の展望について積極的にご提案・ご提言を賜りますようどうぞよろしくお願いを申し上げます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

（司会進行）

＜山本部長＞

それでは早速ですが，議事に移って参ります。

議事につきましては，飯泉知事に進行をよろしくお願い申し上げます。

なお，ご発言の際には，お手元にございますマイクのスイッチを押してご発言をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

それでは飯泉知事よろしくお願いいたします。

２　議事

（進行）

＜飯泉知事＞

それでは，早速ですが，平成27年度策定をいたしました「徳島教育大綱」につきまして，まずは４年間の検証，こちらを事務局から説明をいただきまして，その後，若者クリエイト部会委員の皆様方，そして教育委員の皆様方との意見交換，こうした形で進めさせていただければと思います。

それでは，よろしくお願いいたします。

（１）「徳島教育大綱」４年間の検証

（説明）

＜臼杵教育政策課長＞

教育委員会教育政策課の臼杵と申します。私の方から，「徳島教育大綱」「４年間の検証」についてご説明させていただきます。

本日は，まず「４年間の取組」として，教育大綱の重点項目ごとに，取組の成果等を説明しました上で，大綱策定後の社会情勢の変化を捉えました，教育を取り巻く新たな課題について，説明させていただきます。

まず，４年間の取組として，重点項目１について６つの取組を説明させていただきます。

「障がいによる困難を克服し，個性輝く自立を支援」では，発達障がい者総合支援ゾーンを中心に福祉・教育・医療・就労の機能を集結した「徳島モデル」を推進

し，「みなと高等学園」をはじめとした特別支援学校におけるキャリア教育を充実して参りました。特に，「技能検定」の開発・実施や，「ゆめチャレンジフェスティバル」の開催，さらには関係団体との「就労支援協定」の締結による就業体験の拡大など，生徒達の働きたい想いの実現につなげて参りました。その結果，本県における特別支援学校の就職率につきましては，ご覧のように，全国平均よりも高い水準となっております。

また，小・中学校での「発達障がい教育『徳島モデル』」の展開とともに，高校では，今年度から制度化された「通級による指導」の導入を進めております。さらに，特別支援学校では「商品開発」や「エシカル消費の発信」など，新たな取組を進めているところでございます。まずは，その様子をご覧いただければと思います。

【動画視聴】

今後，就学前から卒業後まで，切れ目ない重層的な支援に向け，キャリア教育や発達障がい教育の更なる充実，全ての教員の専門性向上，特別支援学校間の連携による，質の高い専門教育の展開を目指して参ります。

次に，「キャリア教育の推進」でございます。平成26年３月に徳島県キャリア教育推進指針を策定し，発達段階に応じたキャリア教育の推進としまして，講演・出前授業等を始め，インターンシップの充実，児童生徒と保護者を対象とした企業見学バスツアーなど，多様な取組を展開して参りました。その結果，普通科を含む高等学校全体のインターンシップ実施率も上昇して参りました。

また，高大連携による「人財」育成では，専門高校から，大学への接続を意識した，多様なキャリアパスの普及が進み，徳島大学生物資源産業学部入試では，地域枠４名を超えて，創設以来，毎年５名が合格しています。今後は，平成31年４月を目途に，新たな「キャリア教育推進指針」を策定し，児童生徒が学びの履歴などを振り返りながら将来を考える教材，キャリア・パスポートの活用など，キャリア教育の一層の充実を推進して参ります。

次に，「徳島発の小中一貫教育の推進」でございます。チェーンスクール，パッケージスクールという２つの「徳島モデル」による小中一貫教育を，平成25年度からスタートし，平成30年度には，チェーン19校，パッケージ６校に拡大し，学校間連携の強化や中１ギャップの解消などの効果を生んでいるところでございます。今後は，「徳島モデル」の成果を県内外に広報・普及するとともに，コミュニティ・スクールの導入も推進して参ります。

次に，「二地域居住を加速する学校間移動の実現」についてでございます。サテライトオフィス勤務など，親の短期滞在にあわせて，子どもも一時的な転校を行う「デュアルスクール」でございます。平成29年７月，本県の政策提言を反映し，文部科学省が全国に向けて，一時的な移住に際し，区域外就学制度を活用する旨の通知を出したことで，より円滑に実施できることとなりました。また，地方創生や働き方改革の観点から高く評価されまして，平成29年度全国知事会「先進政策大賞」を受賞いたしました。このデュアルスクールでの，子どもたちの交流の様子をご覧いた

だければと思います。

【動画視聴】

今後も制度化に向けまして，積極的なＰＲ活動に努めるとともに，更なる国への提言を継続して参りたいと考えております。

次に，「全国屈指の光ブロードバンド環境を活用した教育の推進」についてでございます。これまで，電子黒板システム，教育ビッグデータ，テレビ会議システム，プログラミング教育など，最先端のICT活用教育に取り組んで参りました。今後は，未来の創り手の育成に向けて，さらなる教育の情報化が求められており，AI，ビッグデータ等の先端技術を活用した教育の充実，技術革新に対応できる人材の育成を図って参ります。

次に，「地域防災を担う人財の育成」として，高校生防災士の育成を進めており，平成29年度末には，延べ373人の「高校生防災士」が誕生しました。また，全ての高等学校に「防災クラブ」を設置し，地域と連携した防災ボランティア活動に取り組んで参りました。今後も，学校の防災力向上のために，実践的な防災教育を推進するとともに，地域防災を担う「人財」の更なる育成に取り組んで参ります。

続きまして，重点項目Ⅱについて，５つの取組を説明を申し上げます。

まず，「知徳体が一体となった成長を支援」でございます。確かな学力の育成に向けて，学力向上徹底プロジェクトに取り組んで参りました。県学力ステップアップテストの拡充や，授業改善に取り組んだ結果，組織的な取組の定着が進み，全国学力調査において，小学校は20位台で安定し，中学校も着実に向上して来たところでございます。今年度は，中学校は12位と，過去最高順位という一方で，小学校が40位という結果になったところでございます。

そこで，更なる改善を目指して，今年度から「徳島未来の学び創造プロジェクト」を推進しております。３年間で全ての小・中学校を訪問指導するとともに，学力向上確認プリントの活用などの取組を柱に，主体的・対話的で深い学びの実現を目指して参ります。今後も，学校組織として学ぶ体制の構築を図るとともに，特に学力調査で課題となった「読み取る力」の育成に，徹底して取り組み，「確かな学力」の育成を図って参ります。

次に，「健全な生活を守り抜く環境づくり」でございます。「いじめを生まない学校づくり」に向け，医師や臨床心理士などを学校に派遣し，命の大切さについて考える「いのちと心の授業」の実施や，今後のリーダーを育てる「全国いじめ問題子供サミット」への参加，大学と連携した「徳島版予防教育」の取組など，一層の充実に努めております。

また，教育相談体制の充実として，スクールカウンセラー，スクールソーシャルワーカーの拡充に取り組んでおりまして，本県独自のモデル事業として，国に先駆けて，スクールカウンセラーの常勤化に向けた取組を進めております。これらの取組によりまして，いじめや不登校等の未然防止，早期解決，児童虐待や子どもの貧困問題の対応等に，大変成果を上げているところです。今後は，スクールカウンセ

ラーとスクールソーシャルワーカーの人材確保，配置拡充など，支援体制のより一層の充実強化に取り組んで参ります。

次に，「主権者教育の充実」でございます。選挙管理委員会や大学と連携し，出前講座や教員研会をはじめ，平成28年度には，生徒向けのハンドブックを作成し，高校と特別支援学校の入学生に配布するなど，様々な機会を通じまして，主権者教育の充実強化を進めてきました。今後，これまでの取組内容を更に充実させまして，成人として自立し，責任を担い協働できる若者の育成を図って参ります。

「全国モデルの消費者教育の推進」については，「徳島ならでは」の取組として，消費者庁が，成年年齢引下げを見据えて作成した教材「社会への扉」を活用した授業を，全国に先駆け県内全ての高等学校等で実施し，その成果を全国に発信しております。また，各学校の特色を生かした「エシカルクラブ」を平成31年度には，県内全ての公立高等学校に結成いたします。それでは，本年度開催しました「次世代エシカルフェス」の様子をご覧いただければと思います。

【動画視聴】

今後も，全国をリードする先駆的な消費者教育の充実に全力で，取り組んで参りたいと考えております。

続きまして，「新たな成長産業を生み出す教育の推進」でございます。平成28年４月に，那賀高校に林業を専門に学ぶ「森林クリエイト科」を設置し，林業スペシャリストの育成を進めております。平成29年４月には，城西高校に６次産業化専門学科「アグリビジネス科」を，さらに，本年４月には，農工商一体の専門高校として，阿南光高校を開校し，６次産業化教育をしっかりと推進しております。

また，全国に先駆け，平成27年度から，農業・工業・商業科設置校の学校間連携による「６次産業化プロデュース事業」を立ち上げ，生産から販売に至る，実践的な取組を展開しております。今後は，阿南光高校をはじめ充実した施設を，他校や大学，企業との連携活動に積極的に活用するとともに，戦略的な販売実習や，市場調査などの実践的取組の充実を図って参ります。

続きまして，重点項目Ⅲについて３つの取組を説明いたします。

郷土愛を育む教育を進めておりまして，ふるさと徳島の文化・歴史を学ぶ「あわ文化検定」の実施とともに，「あわ文化」の魅力を県内外に発信する中学生「あわっ子文化大使」がこれまでに，173名誕生し，活躍の場が広がっております。また，平成27年，名西高校を「文化芸術リーディングハイスクール」に指定し，地域の文化芸術を担う人材の育成を図るとともに，今年度，新たに「音楽サポーター制度」を創設し，小中学生への技術指導により，地域との交流を進めております。

そして，近畿２府８県の高校生が一堂に集い，日頃の文化活動の成果を披露する「第38回近畿高等学校総合文化祭・徳島大会」を開催し，総合開会式では，「あわ文化４大モチーフ」をはじめ徳島の魅力を，全国に発信したところでございます。それでは ，先日の総合開会式の様子をご覧いただければと思います。

【動画視聴】

今後は，東京オリ・パラや近畿総合文化祭徳島大会の成果をレガシーとして次代に継承するために，児童・生徒の文化芸術活動のさらなる充実を図りますとともに，あわっ子文化大使と，高校生や大学生サポーターとの連携によりまして，「あわ文化」の情報発信をしっかりと進めて参りたいと考えております。

次に，「世界を体感できる環境づくり」でございます。「Tokushima英語村プロジェクト」では，小学校５，６年生から高校生までの児童生徒に，「生きた英語」に触れながら実際に英語を使用する機会を提供しております。成果として，高校生が英語で観光案内をしましたり，長期海外留学につながるなど，広がりを見せておるとこりでございます。今後は，更に，英語コミュニケーション能力の向上を図るため，「小学校３，４年生への機会提供」「スピーキング能力の一層の強化」に取り組んで参ります。

続いて，トップリーダーの育成を目指した，「徳島ウインターキャンプ」では，高校生を対象に，計４日間の合宿で，県外講師による特別講座，知事にご参加をいただいた，大学生との座談会や，教育長との意見交換などを行っています。参加生徒からは，「冬だけでなくもっと開催してほしい」などの前向きな意見を多くいただいておりまして，そうした要望に応えられるよう今後は，キャンプ内容の充実を図りまして，トップリーダーとなる高校生の育成を図って参ります。

世界で活躍する「スポーツ王国とくしまづくり」でございます。「渦潮スポーツアカデミー推進事業」では，鳴門渦潮高校の指定８競技全てが，全国大会出場を果たしたほか，陸上競技部の優勝などの成果がございました。「徳島トップスポーツ校育成事業」では女子バレーボールや，男子ソフトボールなど連続して全国入賞できる競技やライフル射撃，ウエイトリフティングといったお家芸競技が育ってきております。

また，元プロ野球選手である川端順氏をコーチとして招きまして，中学・高校を継続して巡回指導することで,優れた資質を持つピッチャーを育て，全国大会で活躍できる県内チームの育成を目指して参ります。今後は，成果主義による有力指定校の集中強化や，新たな強化種目創出のため「ＮＥＯ徳島トップスポーツ校」の実施とともに，各競技団体や関係機関等との連携強化を図って参ります。

最後となりますが，大綱策定後の様々な社会情勢の変化を捉えまして，教育を取り巻く新たな課題として，４つの項目について，説明をさせていただきます。

まず，「これからの情報社会に向けた人材育成」でございます。現在，AIやIoT，ビッグデータなどがもたらすイノベーションにより，第４次産業革命時代の到来を迎えようとしています。また，内閣府においては，仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムによるソサエティ5.0という未来社会を目指していくことを提唱しております。教育においても，エドテックという新しい概念とともに，科学・技術や芸術領域などの教育を重視したSTEAM教育も広がりつつございます。

また，中央教育審議会答申においては，情報活用能力が示されるとともに，プログラミング教育が新たに実施されることになりました。加えて，先端IT人材の不足

も課題となりつつあります。今後，情報活用能力の育成が必要となり，情報や情報技術を適切かつ効果的に活用し，自らの考えを形成する資質能力の育成が求められております。また，情報教育の一層の充実により，情報を分析・表現したり，主体的に新たな価値を生み出す力を育成するとともに，情報社会に主体的に参画し創造していこうとする力を育成する必要がございます。

次に，「成年年齢引下げへの課題」でございます。若年者の消費者被害を防ぐために，更なる消費者教育の推進が必要でございます。消費者庁とも連携を図りながら，小学校・中学校段階や特別支援学校での取組をさらに進めていく必要がございます。子供たちの自立支援についても，保護者や地域，関係機関との協働体制のもと，主権者教育やキャリア教育の推進とともに，サポート体制を充実し，主体的に自分の将来について考えられる力をさらに育成することが求められています。

次に，「新学習指導要領への対応」でございます。「知識・技能」，「思考力・判断力・表現力等」，「学びに向かう力・人間性等」の３つの資質・能力を柱として，「確かな学力」，「生きる力」を養うことが求められております。幼児教育から高校教育，さらに大学教育まで一貫した学びにより資質・能力を更に向上･発展させ，社会に送り出す必要がございます。そのため，「高大接続改革」も同様の目的で取り組まれており，それに対応できますよう高等学校教育においても，資質能力の確実な育成を進めていく必要がございます。

最後に，「全ての人の人権が尊重される人権教育の推進」でございます。平成28年にご覧の３つの法律が施行されました。それぞれの個別人権課題に対して，指導力の向上を図るための教職員研修や，授業における効果的な教育活動，地域への発信など，全ての人の人権が尊重される人権教育の必要性が求められているところでございます。

以上，４年間の取組状況につきまして，また，大綱策定後において現れてきた教育課題について説明させていただきました。

今後の課題や，進むべき方向性などについて，ご意見いただけたらと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

（２）「若者クリエイト部会」との意見交換

＜飯泉知事＞

はい，ありがとうございました。

それでは，議事の（２）の若者クリエイト部会の皆さんとの意見交換，こちらに移って参りたいと思います。

今年度，若者クリエイト部会の皆様方におかれましては，県政の運営指針であります「総合計画」，その策定にあたりまして，特に高校生・大学生の若い皆さん方に対しての意見聴取，あるいは取りまとめをお願いをしているところでありますので，まずは青木部会長さんの方からその取りまとめの状況・結果についてご報告をいた

だければと思います。

＜青木部会長＞

部会長の青木でございます。よろしくお願いいたします。

それでは，「平成30年度　若者意見の取りまとめ」を報告をさせていただきます。

スライドをお願いいたします。

意見の取りまとめにあたっての取組です。高校生・大学生アンケート，平成30年の５月から６月に実施をいたしました。アンケート対象といたしましては，県内在住の高校生・大学生，約1,900名から回答をいただいてございます。

そして，「対話集会　新未来セッション」，平成30年７月12，13，17日の３回，東部・南部・西部それぞれで行いました。我々も参加をさせていただいてございます。

特に，本県の未来を担う若者の「徳島の未来」に対する夢や思いを聴取するために会場を３つ設定をさせていただきました。

参加者は，高校生16校からなんと計95名参加がございました。あと大学生，そして，地域の活性化等に取り組まれている方，また，徳島県内の各界の第一線で活躍されている方，そして，他県から移住された方などを含んで一緒になってディスカッションを行わさせていただきました。

実施方法といたしましては，地方創生の取組を動画で「vs東京」を始め，まずは動画を見て，「徳島はこうだ」という印象を位置づけて，それから参加された皆さんにディスカッションを行った次第でございます。

次をお願いいたします。

意見の概要でございます。アンケート，新未来セッションでの主な意見としましては，「希望する徳島像」，特に「徳島県人がもっと地域，徳島の事や魅力を知る，その必要性があるんじゃないか」，そして，「徳島県人が徳島にもっと誇りを持つべきだ」という意見が多数でございました。そして，特に取りまとめの中で４分野に分けることにいたしました。

「①阿波で育てる」「②阿波を知る」「③阿波で働く」「④阿波を活かす」といった４分野に分けて報告をさせていただきます。

次スライドお願いいたします。

特に注力してほしい分野で，「阿波で育てる」分野でございます。特にこの部分での将来像といたしましては，「たくましい子どもたちを育む」といった視点が大事じゃないかなと考えてございます。特に，子どもたちは夢や希望の実現に向け，毎日，意欲を持って何事にも挑戦，チャレンジをしてございます。そして，どこに住んでいても自ら望む教育が受けられる，ここに「どこに住んでいても」，徳島県内広うございます。やはり，どこに住んでいても同じような教育が受けられることが一番大事だと考えてございます。自らが望む教育を受けることができる，そういった，「阿波で育てる」ための環境整備は必要だと考えてございます。

次、スライドお願いいたします。

「阿波を知る」でございます。将来像といたしましては，「“阿波の文化”に親しみ，郷土に誇りを持ち，徳島を大切に思う気持ちが育まれている」という将来像が目標でございます。施策の方向性といたしましては，「阿波を知る」，徳島の「今」を知ることが大事でございまして，若者が社会に対して意見を述べられる場の創出がやはり大事なんじゃないかと考えております。我々ディスカッションに参加するといろんな意見がたくさん出てきます。思ったより若者，意外と意欲的でございます。ですから，やはりそういう場が必要だといったことを強く訴えたいと考えてございます。

次、お願いします。

最後のスライド，今後に向けた提言でございますが，先ほども「場」が必要だという意見を出ささせていただきました。若者クリエイト部会といたしましても，まとめの部分では，今回実施いたしました「新未来セッション」での若者の声を踏まえて，新たな意見聴取の仕組みとしては，当然，現在の審議会・部会との議論，それプラスですね，「新未来セッション」のような若者との対話集会，そういったスタイルを取り入れる提案ができる「場」が必要なんじゃないかと強く提言を申し上げたいと思っております。

報告は簡単でございますが，以上でございます。

＜飯泉知事＞

はい，ありがとうございました。非常に良くまとめていただいております。

それでは，せっかくの機会でありますので，若者クリエイト部会を代表した３名の皆さん方からご提案をいただければと思います。

まずは，近森委員さんからお願いいたします。

＜近森委員＞

近森でございます。先ほど，青木部会長からお話がありましたとおり，私は城ノ内高校の対話集会に行かせていただきました。やはり高校生の皆さんすごく大人しいというか，最初は緊張されてるとこもありましたし，なかなか，場所もこれくらいのお部屋に40名ぐらい入っていましたので，意見とか出るのかなと思って見ていたんですけども。同時に携帯を使って意見できることもありましたし，場が温まってくるといっぱいご意見が出てきて，最後にアンケートを見るとたくさん書いていただいてて，やはり発言とか表現の仕方は様々なんですけども，高校生の方すごく意見をしっかり持っているなというのが印象的でした。もう一つ印象的だったのが，神山の話をしてくださった方がいらっしゃったんですが，高校生で神山にそういうサテライトオフィスがあるというのを知ってた子が半数以下でした。私たちそれにびっくりしてですね。徳島の人だったらほぼ知ってるだろうという感覚だったんですけど，高校生は知らない。普通かもしれませんし，私たちはそう思い込んでるんですが，実はまだまだ高校生までそういう情報が伝わってないですし，彼らが知っ

ていることを私たちは知らないというので。本当に知る事は大事だと思います。

今いろいろと取組のところを見せていただきまして，これからキャリアプランのところがたくさん出てきたかと思うんですが，やはり自分で自分の将来というのをデザインできるというところがすごく大事だと思うんです。高校生の方はすごく意見をお持ちです。なんですけども，やはり主体的に考えようというところのお話もあったかと思うんですが，いろんな施策でそのような幼稚園から大学まで一貫した教育を継続的にするというような施策はあって，それをもっていろいろと自分のキャリアプランを考えるというところもあると思うんですが，よく聞くのは，計画はしてたり自分もやりたいと思っていたけどなかなか思いどおりにいかないということもたくさんあると思います。私自身も自分の事を振り返ると本当にそうなんですけども，そこですごく失敗したとなって，気持ちが落ち込んでしまうというよりは，そこでリデザインできるというか，また違った道を自分で考えれる，そういうことにチャレンジできるし，また，チャレンジできる場があるということがすごく心強いだろうなと思ってます。いろいろな取り組みをされていると思いますが，そういった目線もぜひ入れていただければなと思いました。

あと，今外国人労働者を日本に入れる，人数を増やすということでいろいろ議論がされているかと思うんですが，「ダイバーシティ」という言葉もすごく最近よく聞かれると思います。私自身，でもダイバーシティは元々あるんじゃないかなというのは感覚的に思っていまして。同じ日本人だから，同じ徳島に住んでるから，同じ徳島出身だから一緒だよねというのではなくて，やはり一人ひとり思っていることも感じていることも違いますし，ましてや今そういうことがすごく明るみに出ている，例えば，LGBTのお話でしたり，今回その外国の方がいらっしゃるとご家族も一緒に来られることもあるということで，教育面に関しても，外国のお子さんは今ももちろんいらっしゃると思いますけど，どんどん割合が増えていくと思うんです。その中で，みんな一緒だよねというところで，それだとまたいろいろあるのかなと思うので，子どもさんを取り巻く環境というところでスライドがあったかと思うんですが，そういういじめとか人権というところにもひとつダイバーシティという目線を入れていただければいいのかなと思いました。

私自身，教育振興審議会の委員として関わらせていただいた経緯がございまして，昨年度いろいろとお世話になったんですけども。そこでもお話がありましたとおり，やはりこれから本当にどうなっていくか分からない，今までの私たちとか私の親とかの世代が持っていた経験値が活かされないということが，きっとたくさん出てくると思います。そういう時にやはり，生き抜く力というところが出てくるかと思うんですが，その時に学校だけに全てをお任せするのではなくて，学校を取り巻く地域であったり，専門の方であったり，先ほども出てきたソーシャルワーカーさんていう関わりもありましたけど，いろんな大人が子どもたちに関わるということがすごく大事だと思っています。日本の貧困率は，わりと驚く数字が出てきてまして，いろいろ子どもさんを取り巻く問題というのもとても深刻なものもたくさんあるか

と思うんですが，やはり真剣に関わってくれる大人がいるということは子どもの成長にとっても将来にとっても変わって来ると思います。

あと，クリエイト部会の意見の中で私も賛同してたものがありまして，大人もやはり学ぶ機会を持つべきだと思っています。どうしても古い情報というか，今までの経験とかそういう価値観というものをものすごく子どもに押しつけてしまいがちなんですけど，私自身もそういうの気付かずにやってしまうことがありますが，情報というのは古くなりますので常に新しくしないといけないですし，やはり視野は広がるべきものだと思っています。それが子どもたち，親だと本当に影響を与えるので，大人も学べる，学び直しができる機会があると子どもさんたちにもすごく良い影響を与えてそれが好循環として回っていくのではないのかなと思っています。

＜飯泉知事＞

はい，ありがとうございました。

それでは次に，近藤副部会長さん。

＜近藤副部会長＞

近藤でございます。私も近森委員がおっしゃったように，高校生も小学生も中学生もみんなそうなんですけれども，各ステージにおいてそれぞれのステージにあった地域を学べるような，経験ができるとか学ぶことができるというような場を創出していただきたい。それが一方的にこういうのだよというのだけではなくて，しっかりと体験をしてもらって自分の身にしてもらうと。それを実際にじゃあ誰かに伝えたいというところで，発表できる場とか，あと，議論出来るような場も同時に作っていただきたいなと思います。今回「新未来セッション」ということで，たくさんの高校生とお話させていただいたんですけれども，その場，かなり規模の大きいもので，３箇所でやっていただいて，本当に県の方々にはご準備いただいたことに感謝いたします。あと，高校の先生方にもお忙しい中多大なるご協力をいただきまして本当にありがとうございます。

高校生たち，やっぱりここに来た時に言いたいということもたくさんありまして，そういう場が今まで無かったのかなというところと，あとは，言いたいという子もいる一方で，なかなか「うーん，何なんだろうな。ちょっと思うところはあるんだけどな。」という子もいましたので，やっぱり小さい時からいろんなことを考えてそれを発表できるというような教育の場というのを設けていただいたらいいかなと思います。

もう一つは，世界に羽ばたける人材というのを育成していきましょうと。本当に重要なことで，「Tokushima英語村」，これ私が高校生の時にあったらなと羨ましく思うんですけれども。このように世界に出て行くとか，外から徳島を見るとかということも本当に必要なことだと思いますが，その一方で，みんながみんな世界に出て行くということが必要なのではなくて，徳島県内に就職するといった選択をするこ

とも本当に素晴らしいということをしっかりと理解できるような教育のというか，環境づくりをしていただけたらありがたいなと思います。

あとは，先ほどご説明いただいた中にも出てきましたけども，今後情報技術というのはかなり必要になりますので，そこに関して柔軟に対応できるような人材を育成するためにも，我々のような大学とか地域の民間の企業の方々もあわせて，連携というのを一層強化していただいて，そういう教育を高校の先生ばかりに「こういう教育をしなさい」とかということを押しつけるとかなり負担がいってしまいますので，そういうところというのは連携して，負担の軽減という意味でも，実社会を高校生とか小学生・中学生に見せるためにもそういうことを強化していただいたらいいかなと思います。

他には，まだ文化とか芸術とかスポーツについても，それぞれの個性がそれぞれでとても素晴らしいんだよということがお互いに認め合えるような教育をしていただいて，自信を持って暮らしていくとか豊かな心を育んでいけるような教育をしていただけたらと思います。以上でございます。

＜飯泉知事＞

はい，ありがとうございました。

それでは，最後に青木部会長さんお願いいたします。

＜青木部会長＞

お二人が若者意見聴取のことについてほとんど触れていただきましたので，私の方は現実的なお話をさせていただければと思っております。

重点項目の1-6のスライドをお願いいたします。「地域防災を担う人財の育成」の防災に関するこの４年間ですね，総評が今回の視点に入っているということでございますのでご意見をさせていただきます。

「地域防災を担う人財の育成」に関しまして，中高生の防災ボランティアというのは本当に災害が起こった時に，間違いなく力になるのは明白でございます。特にこの４年間において，高校生防災士を育成していただき，また，各校にも確か防災士の，先生が配置されているとお伺いを，教育振興計画，私も委員をさせていただきましたので，質問の中でお受けいたしております。この地域防災に対する高校生の防災士の育成というのは，ぜひとも継続して頑張っていっていただければと思っております。やはり，南海トラフ巨大地震，いつ起こるか分からない，それに対して地域の力・高校生の力というのは非常に大きなものがありますので，学校防災力向上と共に，地域と連携した防災力向上に引き続き教育の場から進めていっていただければと思っております。

それと，やはり夢がないといけませんので，これは平成27年８月４日の前回の教育大綱の時にも私発言をさせていただいてございますが，ぜひとも，いつかは兵庫県の舞子高校にあるような環境防災科のような防災学科を徳島県にもぜひとも形は

違えど，プログラムでもいいのでできるような形で防災教育に力を入れていってほしいなと考えてございます。

それとプラスですね，少子高齢化が進んでございます。これもいろいろ発言を私いろんなところでさせていただいております。今日もこのオレンジリングを付けているとおり，認知症に対することでございます。現在（平成30年１月１日，住民基本台帳に基づく人口）徳島県の人口は757,377名，高齢化率は31.6％でございます。平成30年９月末で，認知症サポーターは81,389名と。実は，認知症サポーター，徳島県非常に頑張っておりまして，2017年増加率は３年連続全国１位ということでございます。それにはやはり，学校教育の場での認知症サポーター養成が今後も必要なんじゃないかと考えてございます。私は地元が新野でございますので，毎年新野高校におきまして認知症サポーターを全生徒・全教員に対して毎年講師としてお招きをいただいてございます。やはりそういった認知症に対する高齢者との理解・知ると。これこそ知るといったことで大事でございますので，必ずや次の教育大綱においてもこの視点を入れていっていただければと考えてございます。

それともう一点でございます。重点項目3-3のスライドをお願いいたします。「世界で活躍する『スポーツ王国とくしま』づくり」でございます。今日の知事のご挨拶にもありました。来年には2019年ラグビーワールドカップ，そして今日もピンバッジを付けておりますが，東京オリパラ，２年後，もうカウントダウン状態に入ってきてます。そしてさらには，徳島も競技地となります，「ワールドマスターズゲームズ2021関西」が行われるというところでございます。国民の皆さんの注目はこれから数年はスポーツに注がれると。つまり，スポーツと教育が注目を浴びます。そこで，徳島県としては鳴門渦潮高校さんを始め，トップスポーツ教育事業が僕は本当に成功していると考えております。その中でも，各カテゴリーに合わせた全体の運動能力向上も少し力を入れていってほしいなと思っております。何かといいますと，小学校・中学校では体力測定などを指標にしてですね，全国調査科目で全国平均を上回るような成績を目指してほしいなと考えております。なぜかというと，特化した専門の競技以外の全国競技大会や中学校の体育大会，そして高校総体でもやはり各賞入賞，そしてより高い目標を設定して，実績向上というのは必要なんじゃないかなと思っております。社会に出て，国体や様々なスポーツ選手，そして世界に羽ばたくようなプロスポーツ選手になると私は信じてございます。ぜひとも教育の新しい分野への挑戦も忘れてはいけないと考えてございます。新しい分野でいいますと，スポーツというと，今後注目を浴びるのは間違いなく「ｅスポーツ」というのがあります。これは，知事も確かマチアソビで，ｅスポーツをされたとお伺いしてございます。やはり，新しい分野，特にｅスポーツであったり，僕次来るのはダンスじゃないかなと思っております。文化・ダンスですね。ダンスも今は必修科目になってございますので，ぜひともそのダンスに対しても，ダンスチームの何かいろんな施策であったり，そういった新しい事へのチャレンジ，挑戦というのも次の教育大綱には私は必要なんじゃないかなと考えてございます。

教育の視点でどうしても言いたいことが一つだけありました。実は，今までいった４年間の総括それと新しい事へのチャレンジがあればそれでいいかというと実はそうではないと僕は思っています。あえて申し上げます。「地域の誇るべき伝統を守り継ぐ教育の大切さ」これがやはり徳島県には私は必要だと大きな声を上げて言わせていただきます。何かといいますと，これも実は私の母校でもあります，徳島県南部圏域にあります新野高校の事例がございます。新野高校では実はバイオ技術を非常に活かしておりまして，それで阿南市の離島であります伊島に自生する希少生物「イシマササユリ」の保護に今も取り組んでおられます。来年は先ほど報告がありました，もう開校いたしましたが，阿南工業と一緒になり阿南光高校になる。だけども，活動は継続すると私聞いてございます。こういった活動は地元，伊島中学校と一緒に約30年前に始めて，今も地道な環境活動によってイシマササユリは絶滅から免れていると言われてございます。私が申し上げたいのは，このように県内地域の誇るべき伝統を守り抜く，そして地域と共に教育が大切だといったこと、未来の学生の皆さんと共に地域の皆さんで「守る」といったことを重視した教育を望んでございます。「攻めの教育施策」プラス「守りの教育の視点」，両輪の大切さを改めて私はご提言をしたいと考えてございます。

最後に，若者クリエイト部会の部会長でもございますので，今日若者クリエイト部会としてご提言させていただきました，「新未来セッション」のような，若者の皆さんが言える場，声を聞く場，聞ける場，それは必ずや継続をしていただき，これからも若い学生の皆さんと共に，徳島の未来・教育を担っていっていただければと考えてございます。以上でございます。

＜飯泉知事＞

はい，若者クリエイト部会の３名の皆さん方，ありがとうございました。

今もお話がありましたように，やはり若い皆さん方が意見を自由に言える場，こうしたものが重要であろうと。というのは，大人の皆さん方は当然，新聞だテレビに出ていればみんな知っているだろうと。神山のサテライトオフィス，知っている人半分以下。そりゃそうですよね。マチアソビといったらほぼ100％なんですけどね。ところが，マチアソビというと今度は中高年の人は「何やそれ」ってね。だから，そうした点をそれぞれの発達段階に応じて分かりやすく，そしてできれば関心が高くなるような持っていき方をしないといけない。上から目線がいかに駄目なのかというのはそういうところにこう出てくるところでしてね。だから，私の場合には，特に高校生たちと会ったりする時には，まず愛読書から入るんですね。何か難しいものを愛読書として知事はいつも読んでいる，法律書ばかりを読んでいると思っているらしく。「違うよ，少年ジャンプ」と言ったとたんに，「知事」という世界になるというね。そしたら後は少し難しい話をしてもみんな聞いてくれると。帰る時はみんなスタンディングオベーションで送ってくれると。こうしたことがありますんでね，今大変貴重なお話をいただきました。青木部会長さんには関西広域連合でも

井戸連合長に，「関西広域連合，それ作れ」という話を強く言っておりましてね。やはりこれも徳島のこういう話というものを関西全域に広げれればと思っておりますので，これからも積極的にご発言を皆さん方よろしくお願いを申し上げます。

今日は本当にどうもありがとうございました。

【若者クリエイト部会３名退席】

（３）意見交換

＜飯泉知事＞

それでは，引き続き「意見交換」に入っていきたいと思います。

ここからは教育委員さん方に順次お話をいただければと思います。それでは，いつも名簿順でということで，河口委員さんからお願いいたします。

＜河口委員＞

今，若者の意見の取りまとめということで，若者クリエイト部会からの素晴らしいご意見のあとで圧倒されているのが感想でございます。徳島教育大綱の４年間の検証ということで，資料を読ませていただきながら，「徳島ならでは」，「輝く，自立，郷土愛」こうしたことについてこの４年間，徳島の教育が力強く推進されてきたことを感じております。さらに変化する社会の中で，今後４年間徳島の教育をどのように進めていくかということについて，４年間で推進してきたことを基にしてさらに地道に取り組んでいくことも必要ではないかなと思っております。このことについて，５点から６点ぐらい意見を述べさせていただきたいと思います。

まず１点目は，特別支援教育ということで，この４年間で中学生の進路選択が広がっている，これは非常に大きな取組ではないかと思います。みなと高等学園をはじめとして，進路選択ができます。表題にある，個性輝く自立ということを支援できるということで，さらに本年度から高校における通級による指導も導入されたことも大きな取組ではないかと思います。今後これをできるだけ拡げていっていただければと思います。コミュニケーション，人間関係作りが非常に難しい高校生，中学生たちに対し個性輝く自立ということで大変素晴らしいことだと思いますので，これが拡がっていただきたく思います。さらに特別支援教育というのは教育の中で教員それぞれに大切な分野だと常々痛感してきておりました。全ての教員が特別支援教育をしっかりと学んでいただき，そして特別支援教育を自分の教育の指針として生かせられるような取組というのをこの４年間でしていただければと思います。

２点目は，キャリア教育ということで，これも大変素晴らしい取組であると思います。自分の将来を目標を持って進んでいくためには，このキャリア教育は大切であり，キャリア教育推進指針というものが策定されるということで，是非これはしていただきたいのと，キャリアパスポートを有効化していただきたい。何気なく毎日いろいろなことでなくて，やはり積み重ね，小中高大とこういった一つの流れの

中で自分の生き方を考えさせられることは大事なことだと思うのです。できましたらこれをポートフォリオ的にし，これが積み重なっていくと，小学校は小学校，中学校は中学校，高等学校は高等学校だけでなくて，それが一体化されると非常に有効的に変われるのではないかと。

３点目は，学力の面からもこれができると，キャリアと学力とその個人のものが一体化されると有効に使えるし，働き方改革につながるのではないかと常々思っております。中学校にずっといたんですけど，そういったものを当時，手書きで書いてそれを高等学校に送ると，そういったものが活かされてポートフォリオで連絡ができると非常にスムーズな対応ができるんではないかなと思います。

先ほどのご意見の中にもありましたようにどこに住んでいても教育ができるという言葉がありましたけども，これがまさに徳島モデルないろいろなモデルということが展開されています。これを是非この４年間でやってきたことに対して，誰がどこにいてもへき地校であろうと，いろいろな所でも教育ができると。前回お話させていただいたんですが，例えば病院でいても，不登校であっても，誰がどこにいても教育が受けられるということが可能となることを提案いたします。

４点目は，ICT活用についてです。どんどん入ってきておりますけども，小学校ではプログラミング的な思考というのが入ってきています。これについては，学校現場では大変苦労されていると。県教委としては，研修とかいろいろ取り組んでいると聞いております。１２月に全県下で研修会があるということですが，南小松島小学校でやられると思うんですけど，そういった所に１つの小学校単位で，大変先生方はどうしたらよいのかというのを研修されていると思うのですが１つの学校のみでなく，大学生との提携を図ったりとか，また，何校かで地域でまとまっていろいろ研修するとか，そういうふうな体制を作ればスムーズにいくのではないかと思います。学校現場では大変だと思うんです，それを大変と思うのではなく，それを教員自身が，前向きに捉えることができるようなものができるんではないかなと思います。大学でもそういったプログラムについての研修をしていますので，学生がいろいろな小学校に行って一緒にサポートしています。そういったことをしっかり小中高大で提携を持っていって，先生方がそういったこと一つ一つに対して前向きに子どもたちのために働き観を持てるような取組ができればいいと思います。

５点目は学力です。県教委の取組で学力が定着しているということを出していただいております。今回中学校がぐっと上がりましたね。これは素晴らしいことだと思うんです。なかなか中学校の１２位は難しいんですが，この数字を見た時に，この中学３年生が小学６年生の時に２７位でしたが，それがすごく伸びているんですよね。この伸び率を分析する必要があると思います。そういったことをやられている県もあります。伸び率を分析することによって，教員の指導力，そういった教員の指導力向上にもつながると思います。伸び率という視点から，今後学力ということを分析して生かせたらいいのかなと思います。もう１点，家庭学習ノートの利用ということで，全国平均より上回っていると思うんです，その点は。ですが，やっ

ぱりトップの県は，このノートの利用により確実に学力はついています。そういった家庭学習ノートの活用というのも，工夫がなされれば，もっともっと本県の子どもたちの学力は向上するのではないかと思います。

いよいよ新学習指導要領も実施されます。我々，大学でも授業で学生の指導をしていますが，一番大事なのは，幼小中高大の一体感の中で，それから社会のその一貫した流れというものが非常に重要だと思います。高校と大学との接続の改革が行われています。その中で大学と高等学校の接続の取組は行われています。幼稚園から小学校，中学校と一貫した取組というのが今後さらに必要ではないかなと思います。

やはり，多忙な中で教員が大変だとか忙しいとかそういうのではなくて，教師自身が子どもを目の前にして，子どもたちのためにやるという，教師自身が輝いてないと子どもたちも自立したり輝かないと思うのです。徳島県の子どもたちのためにやってやろうという気持ちが持てるような，そういうような取組を作っていかなければならないと思っております。たとえ忙しくてもそれが子どもたちのためにという，それが自然な教員もいれば，大変だという捉え方をする教員もたしかにいると思うんです。学校あげてのチームで全ての教員が輝く，そのことが子どもたちが輝くということになるのではないかと思っております。以上です。

＜飯泉知事＞

はい，どうもありがとうございました。

確かにそうなんですよね。学校の先生というとどうしても，全て自分で自己完結しなければならないという義務感というんですかね。こうしたところが，餅は餅屋に任せればいいのにと。確かに小学校の場合には，教科制になっていないというのがこうあるというのがね。ただ，今後は英語がどんどん入って来るという形になりますから，本来はそうした形も一ついいんでしょうけどね。そうしたら餅は餅屋に，何と言ったって，英語，ALTとかね，英語指導助手，じゃあITだってIT指導助手というのが入って来れば良いわけですし。あるいは特別支援教育についても，そういう指導助手が入ってきてくれてもいいしと。なにもフルセットで何でも自分で自己完結というところを価値観として変えて行けば，それは教員の皆さんの働き方改革に繋がるんじゃないのかなと。貴重な提言をいただいたところであります。

いよいよ城ノ内高校が中高一貫に完全になってくるということもありますので，こうした点もこれから。そして高大接続，これは阿南光高校が徳島大学との高大接続という形がいよいよスタートを切るということにもなりますので，そうした意味では，今，河口委員さんから言われた様々な点が，もう徳島としてはやることが決まり，あるいはスタートをするということになりますので，しっかりと教育委員会の方でも咀嚼をしていただければと思います。

それでは次に，小林委員さんお願いします。

＜小林委員＞

小林です。よろしくお願いします。４年間を振り返ってというところで，いろいろとこの教育大綱を最初見た時に教育委員によって１年少しですが，徳島ってすごいなということを最初に感じたのが去年の８月でした。こういうふうに教育を進めているんだということも分かりました。実際にいろいろ話し合って，会議とか，それから教育委員になってすぐの頃に藤本委員さんと榊課長にお世話になりハナミズキを見学させていただいたんですけど，大変感動しました，こんなふうに進んでいるんやなと。飯泉知事のもとでこういうふうに徳島全体がしっかり教育に向けてしっかりやって，それで同じ方向に進んでいるのだなとよく分かりました。

先ほど，若者クリエイト部会の方の話もうかがって，ちょっと思ったんですけども，今この国が一番抱えている問題っていうのは，たぶん少子化だと思うんです。少子化で特に産業界で労働力が不足しているという。徳島でもキャリア教育というのを一生懸命されておりますけも，全体に感じるのはICTとかAIとかの導入でかなりレベルの高いキャリアを目指している感じがします。これは私の意見ですけども。実際に建設業界とか工場で働く労働者のみなさんをどうやって育てていくんだろうなとちょっと疑問に思います。そしたら今，国でも同じ事を考えてて，先ほど近森さんが話されていましたけども，今，国会では入管法の改正案が審議されてますけども，技能実習生の在留期間を長くしようとか高度外国人材，高度な外国の方の人材を確保しようと，そういう人は家族も一緒にという話もあるんですけども。実際に考えてみると，今日本に多くいらっしゃる技能実習生の方っていうのは，建設現場とか工場とか農業とかで働いていると。そういう人らに任せてしまおうというのがどうも国の方針のような気がするんですけど。あえて問わしていただければ，この国はこれでいいのか，全部外国の人にそういう仕事を任せておいて，この国はそれでずっとやっていくのかなというところが疑問に思うところです。これを教育委員会がどうやって関わっていけばいいのかよく分かりませんけども，先ほどもクリエイト部会の方が高校生，大学生の意見はいろいろ話を聞きましたと。その中で定時制の高校の人とか，あるいは若い兼業者の方とかの意見も聞いてほしいなと感じたところです。高校生，大学生というのはやっぱり自分が持っている向上心を前面に出しますし，自分はこうしたい，徳島県はこうなってほしいというところがたぶんあると思います。ただ実際にそういう現場で，いわゆる３Ｋと言われる現場で働いているような人たちはそんなことを考えているのかなというところも思います。そういう人の意見も取り入れるべきという感じがします。実際にそういう意見を聞いて，だったらどうしようかというのは，これから考えなければいけないのですが。ちょっとどうもこの国全体がどうも上滑りで嫌なことはよそに任せてしまおうかというような感じがどうもします。

例えば外国人実習生の方，徳島県にもたくさんいらっしゃいますよね，みなさん感じませんか。中国人がうるさい，そんなこというたら差別ですけどね。どうも清潔じゃないよなという感じで見てしまったことありませんか。それはやっぱり差別

なんですよ。外国から来ている実習生の方々と日本のそういう若年層の方たち，あるいは大人もそうですけど，どういうふうに付き合っていくのかということも，人権教育の上では重要になるのかなという気がしています。さっき人権関連三法という話がでましたけども，その中でもヘイトスピーチの話もでましたけども，実際に徳島でヘイトスピーチの法律に触ったことのあった事例があったか知りませんけど，ひょっとしたらこれから先，そういう外国人の実習生が増えてきたときにヘイトスピーチに関わるような事案が発生するかもしれない。それはもう事前に教育の場で，それはだめなんやぞということも教えていくべきかなと感じました。

将来この国がどうなっていくのかというのは徳島県だけの問題ではなくて，今国が話し合っている問題なんですけども。でも国がどうあっても，徳島県はこうしていきましょう，外国人の実習生の方とこう付き合っていきましょう，あるいはさっきも英語村とかウインターキャンプとかの話がありましたけど，そういう中にそういう人たち，また別の場でそういう人たちと関わりを持ってもいいんではないかなという気がしました。以上です。

＜飯泉知事＞

はい，ありがとうございました。

まさに，今の日本全体の大きな課題，こうした点についてもご指摘をいただきました。

それでは，藤本委員さんお願いいたします。

＜藤本委員＞

先日は近畿高文祭の開会式に出席させていただきまして，素晴らしい開会式で河口委員さんと涙涙で最後立ち去り難くて，２人でよくできたねと言って，そんな言葉をかけさせていただいたんです。素晴らしかったですね。それはやはりこの教育大綱の成果が出たのではないかと私は感じました。素晴らしい高校生たちを私たち教育委員会，教育に携わる者は，大切に守り育てていかなければとつくづくと思わせていただきました。

あの素晴らしい若者のパワーを是非オリパラにつなげていただきたいものだと思います。そしてスポーツができる方は大変素晴らしいんですけど，スポーツのできない者もおりまして，徳島県は藍染めで今度のエンブレムも藍ということで，やはりオリパラがスポーツができる方だけのものではなくて，全員参加ということで，是非徳島も藍染めをキーワードに何かそれぞれの高校生に力を貸していただき，小学校中学校で力を貸していただいて，ハンカチか何か染めまして各家庭でそれをオリンピックを応援する意味で掲げるというか，私はなかなか発想ができませんけど，何かそういうような形で全員が参加して応援するということも，この中に考えていただければいいなと思いました。

それと，先日，高校・特別支援学校の校長任用候補者選考審査の面接を３日ほど

させていただきました。３０人からの教頭先生のお気持ちをお聞きさせていただきました。その中でちょっと感じたことなんですけど，履歴を書くところがございまして，たくさんの研究をなさったこととか，また，研修とかを書くところがございましたが，その３０数名の方々の中で海外研修を教頭先生でなさっている方が２，３人しかいらっしゃらなかった。やはり世界の扉を開く教育のためには指導者がまず海外に行っていただきまして，研修を積んでいただいて，お子さんたち生徒さんたちにこんなに素晴らしいよって言っていただけることが一番だと思います。私，人形浄瑠璃をしておりまして感じますことは，やはり学校の先生方が人形浄瑠璃が素晴らしいよ，いいよって担任の先生に言っていただけることが一番大きいんです。我々がいくら言ってお願いしても。やっぱり現場の先生，小中高の全ての先生方が何か研修で是非に皆様がいろいろな国内外の研修，海外の方との交流ができるような研修をこの中にまた入れていただければいいかなと思いました。また，中高一貫の場合，職員室を一緒にしてもらいたいというご希望がございましたね。やはり先生方が，中学校の先生は中学校，高校の先生は高校の先生で，分かれていますと，便利な面もあるでしょうけど，同じお部屋というか区切るときは区切って，１室でご一緒にいれたら，いろいろと情報が交換できるというようなお話もお聞きしました。

それとビッグデータの話もございますけど，徳島は大変進んでいるので，発達障がいとか特別支援のお子様のいろんな状況，状態を保護者の方はやはり一つ一つ悩んで苦しんで，この子がこうなった時にどうしたらいいかと，大変悩んでいらっしゃると思います。先生方もそうだと思います。この状況，データがあったら，個人情報という意味ではなくて，いろんなこういうことが起こったらこういうことが起こるというデータを蓄積しまして，発達障がい，特別支援の大変先進県で徳島いらっしゃって，就職率も高いということですので，何かそういうデータを集めていただいて，先生方の対応をこういう子どもたちの症状が出たらこうする，親御さんもこうしたらいいっていうのが，そういうことが出てくると思うんですね，データを集めましたら。そういうようなこともまた，余力があれば是非に，これだけ素晴らしい教育大綱をしていただいておりますので，欲を申しますけれども，そういうようなことも進めていただけたらと思います。

また，働き方改革で，子どもたちはもちろん各教室を冷暖房完備で充実していかなければなりませんが，先生方の職員室の部屋を綺麗に，新しくするというか，使いやすくするっていうんですか，やはり働くためには，机も綺麗に部屋も綺麗になったら先生方もいきいきとお仕事ができると思います。先生方の働き方改革のためにも，是非各教室はもちろんのこと，子どもたちの教室はもちろんですけど，先生方の教室も新しくしていただく，予算を取っていただいてと思いました。

また，定時制に通われているお子さん，不登校のお子さんだったり，親御さんの経済的なこともあったりで，先生方も大変ご苦労されながら教えていただいていると思います。定時制高校の充実といいますか，やはりいろいろな思いをお持ちのお

子さんが多いと思います。それで，やはり校舎を綺麗に美しく新しく明るくしていただけたらと思います。

大切な大切な子どもがさて就職する段階で企業面接を受けますね。そのときに子どもたちはかなり痛めつけられるようです。私も教育委員をさせていただいて２年ほど新人採用の面接をさせていただき，教頭先生が校長先生になられる面接もさせていただいておりますけれども，いじわるな嫌みな質問でなくて，そのお子さんのたとえその子を採らなくてもその子が何かプラスになるような質問をしてあげたり，また，選別するためにその子を否定するような質問をして痛めつけないようにしていますが，主に大学から企業を受ける場合のことですが，企業では選別するためにしているところがあるみたいなんです。すごく心を病んで４０件も５０件も企業を受けてだめで鬱になったりするという方も聞きます。教育委員会の願いとして企業の方にただ採ってくださいというお願いだけでなくて，やはり就職の面接とかなんかでも，その子は国の宝，われわれ徳島県の宝なので，どうか面接で落とすのは自由だけれども，質問の内容でその子の否定をするような面接の内容は言わないでほしいということも要望として言っていただくようなこともお考えいただいたらいいなというようなことも，教育大綱とはちょっと離れるんですけども，自己肯定力の低いお子さん，なんでもできるのになぜ自己肯定力が低いのかなというのがちょっとございます。褒めて育てていただいていってるとは思うんですけど，その辺の事はまだ私はわかりませんけれども，何かの手立てがあって，どうか素晴らしいお子様を，あんなに近畿高文祭で素晴らしいお子さんでございます。守って育てていかなければいけませんので，少子化もありますが，大事な大事なお子さんですので，今後ますますよろしくお願いしたいと思います。以上でございます。

＜飯泉知事＞

はい，ありがとうございます。

今後と照らして重要な点，第４次産業革命，ソサエティ5.0という中で，今出たビッグデータですね。つまり，個別のデータではなくて，個別性・特別性を外してビッグデータにすることによって，先ほどの特別支援教育，いわゆる傾向の先取りをすることができるようになります。それからいわゆる対策を打てると。そして，対策を打った後にもフィードバックといいますかね，それがどう上手くいったのかもビッグデータで弾き出すと。そして修正を行っていくと。こういう形で今は，別に特別支援教育だけではなくあらゆる分野がそうなってきているところでありますし。

または，学校の教室・職員室きれいにというね。私も学校へ行くと教職室見るんですけど，汚いですね，本当に。何が汚いかというとね，書類が山積みね。だから，この10階じゃありませんけど，どっかの学校フリーアドレス制にしてペーパレスにしてしまうと。そうすれば，否が応でもIoTに慣れるということがありますのでね。そうした点も体感すると意外と楽ちんな話になります。非常にきれいに見えますんでね。これどっかモデル，手挙げ方式で，どこかやれじゃなくて，やってみようと

いうところを求めたらどうかと。今，県庁の中はどんどんどんどんそれが進んできて，若い人たちはそれをやってくれという世界ですよね。そしたら確かに部屋きれいなんですよ。10階見に行っていただいたらすぐ分かると思うんですけどね。ぜひそうしたものも教育委員会の現場で手挙げ方式でやっていただければと思います。

それでは，辻委員さんお願いいたします。

＜辻委員＞

辻でございます。よろしくお願いします。ペーパーレス化は会社でも課題だと言っているんですけど，なかなかうまくいかない。幹部から変わらないとなかなか変わらないというふうに感じました。

教育大綱の話なんですが，やはり教育だけじゃなくて機会は均等でないとだめだろうと思いますし，その機会を得られない負の連鎖をどっかで断ち切らなければいけないと思います。

なので１つは社会人というのかな，会社員といいますか，卒業して社会人になっている人への継続的な学びとか教育とかそういうのは必要であると思います。自営業もあるでしょうから全てとはならないと思いますし，あと中小企業で，企業も大小ありますからなかなかできないと思いますけども，知事部局の方からも，先ほど言った面接上気をつけるべきことであるとか，そういったことも踏まえて企業の総務部や人事部と交流しながら企業内での教育の機会を増やしていく。協力していただけるというのが前提なんですけどね，企業がね。ただ，企業側からすると自分のところの人材が学んで少しでも成長してくれると非常に良いことなんですね，逆にね。非常に良いことなので，そういったことをやっていかれたらなと思います。

あと幼児教育で１つだけお願いといいますか，目標としていただきたいのは，小学校１年に上がったときに，みんなお座りができている，これが非常に大事ではないかと思います。小学校１年生が，先生の話をちゃんと聞けている，それが大事だと思います。それを少し目標として掲げていただけるといいかなと思います。

それから徳島はスポーツにしても芸術にしても芸能にしても，やはり東京とはかなり環境の差があります。ですので，どういうふうに仕組むかはちょっとわかりませんけども，例えば高校生が５００円毎月貯金したら，クラッシックの好きな子だったら徳島でロンドンフィルハーモニーが聴けるとかですね，足りない場合はどっかからお金を持ってきてもらうとして，それは県費であったり企業の支援であったり，そういったところで本当に世界で一流というものを若いうちに味わってもらう，そういった機会を設けていってはどうかなと思います。

それとグローバル化の話が出てきました。コミュニケーション能力を向上させようっていうんですけど，アメリカとかヨーロッパとかでしょうか，コミュニケーションって技術じゃないかというふうに思っていまして，その技術をちゃんとしている。そういう教育って必要ではないでしょうか。自分とあなたは違うよっていうことが前提で始めるというんですか。日本人は村社会ですから，非常に便利な面もあ

るんですけども，みんな同じ考えじゃないかというのが前提になっているのでうまくいっていない場合が多いですね。ですので，そういうコミュニケーションの技術を教えるというのも大事ではないかと思います。

それでその先々はどうやっていくかというと，これからAIがだいぶ仕事をとってまいります。事務一般とか営業活動の一部とか，製造とか物流の一部分，計画を立てるとか，資材の購買計画をするとか，そういったところAIがどんどん関わってきます。なので必要とされるのは，職人ではないか，プロフェッショナル，そういったことが大事ではないかと思います。大量生産の場合はAIで代用が効くのかもしれませんが，一品作りとなるとやはりこれは絶対人間の方が上です。そういったことができる人材を育てていくのが大事ではないかと思いました。以上です。

＜飯泉知事＞

ありがとうございます。

最初におっしゃっていただいた，お座りができるというのは一つの事例だと思うんですけど，例えば，いわゆる一般的に言う礼儀作法ですよね。そうしたものをどう小学校に上がってきた時に身に付けるのか。これからは，無償教育，幼児教育になってきましたので，それぞれに公私ともにそれぞれの特色を持ってと。

もう一つ，ただ課題として出てくるのが，今徳島がその日本最先端いってるんですけども，特別支援教育ということで発達障がいですね。多動性障がいであったり，あるいはアスペルガー症候群ですね。つまり，対人がものすごく苦手と。ものすごく優秀なんだけど人と話ができない。そうした子どもたちの特性をどう見いだしていくのかというのもまた大きな課題となるところでして。そうした人たちもちゃんと見て，そしてどういうふうに育んでいくのか。

また，「500円出せば」，これ良いアイデアなんですよね。おっしゃるとおりです。ただ，東京と比べて，あるいは大阪と比べて言わせていただくと，私は徳島の方が上だと思いますね。我々は大阪で育って，そういう超一流のものを学校から提供された試しがないんですよ。マスプロですから。もう十把一絡げね。なんぼでもあんたの代わりはおるわという世界ね。ところが，徳島の場合というと子どもが割と少ない，人口が少ないんで身近なんですよね。だからスポーツであっても，例えば，ラグビー，小林委員さん一生懸命やってられてますけど。ジョージアが来るわけですからね。目の前で世界ランキング第12位の練習風景が見れるというね。とてもとても大阪・東京は無理です。試合は見られるかもしれないけど，それは馬鹿高い値段なわけですから。そうした意味では逆に，500円出すという習慣を付けるというのが重要なんだと思うんです。つまり，例えばどんなに良いものを持って来ても有料だと来ないんですよね。タダだったら行くって。いや違うだろうという。ただ，この16年でそこのあたりの文化がだいぶスポーツもあるいは文化も変わったんではないのかなと。ただワンコインで良いものが見れる，それが徳島なんだというそういうところが非常に重要な点だと思いますので，またそうした点。

あるいはAI時代になってどういう人が生き残っていけるのか，あるいはどういう人材育成をするか。これはまさに匠の技なんですよね。誰でもできることはもうみんな，つまりホワイトカラーの世界というのはこれからは一掃されちゃうんですよね。今日もさっきは技能のいろいろな検定で賞を取った人たちの表彰をさせていただいたんですが，まさに彼らこそがこれから残っていく。ただ，そこには技能伝承がされていないっていうのがこの日本の辛いところなんですよね。ホワイトカラーたって，いわゆる京大出・東大出そんなもの何の価値もないんです，これから。東大行って何をする，京大行って何をする，あるいは高校を卒業して大工になる，いや中学でもいいんですけど。一体何をするっていうね。そこのところをどう意識付けるかというのが一番のポイントで，これをできなければこの国の将来はもうない。まさに辻委員さんのおっしゃるところでありますので。特に単一民族とよくいわれる，本当は単一民族では日本ないんですけど，でも多民族国家ではないのは事実ですから，そうしたものをどう今後ね。それを逆にマイナス・ピンチをチャンスにいかにしていくのか。村社会の良さから多民族国家へというね。こうしたところを今提案いただいたところでありますので。これはもう国家的な課題ではありますが，その解を徳島から出すことができればとこのように思っております。

ありがとうございました。それでは，松重委員さんお願いいたします。

＜松重委員＞

松重です。まずは教育大綱。実は４年前その策定作業にも関わっていて，その内容については，みなさんの評価は高いんですけど，数年経っていますから，この時期にやはりしっかり検証していただきたい。検証して，ＰＤＣＡサイクルじゃないですけど，そこの足りなかったものは改善し，良いところをもっと伸ばしていくというところの検証。これは事務局でもしていただけると思います。

それでこの４年間で大きく変わってきた状況というのは，１つは地域っていうのが非常に重要になってきている。少子高齢化というのは前から分かっているんですけど，それがやはり現実になってきて，県内の中高も含めて統廃合っていうんですかね，そういうこともあり。そうすると単に少なくなったから統合するということではなくて，地域における学校の価値，これを改めて見いだす，それをするにはどういうふうにしたらいいかというその工夫が必要かなと。先ほどのICTの活用があります。徳島がまずは本当に先進県になってほしいと。予算の話は後でさせていただくんですけど，やはり進んでないところでやるのが重要だと思います。そうすると，平均も上がるんですね。全てを上げるというとなかなか難しいんですけど，特徴を出す，特色を出すというのは全体的に元気もでますので。特徴を出すという面では，地域の伝統文化というのがありますし，スポーツというのもあります。ぜひ先ほど例として出ていないのでサーフィンも入れていただければと思います。そのように県全体がスポーツを応援しているという理解があるというところは地域の活性化につながると思います。

もう１つは教育の中で，徳島県は，消費者庁誘致をしていますので，特に消費者教育については，徳島に来れば消費者教育，エシカルも含めて学べると，そこで資格が取れると。さっき資格がありましたけども，消費生活相談員とかアドバイザーというのは国家資格になっていますので，これから各県自治体や大企業でも，そういう資格のある人が重要になってくると思いますので，徳島に来ればそれが学べてそれぞれの地域に分散するといいかなと思います。今エシカルソングというのを作っていまして，加渡先生作詞，福富弥生さんに作曲，歌っていただいて，ＣＤを出しますので，よろしくお願いします。

それからもう１つは，先ほど言ったようにソサエティ5.0という新しい時代になって，これは技術的な問題ではなくて，教育，ないしは人間のあり方ということですので，現段階では，これらは漠然としていますけど，そういったものに対して，徳島はいろんな取組をやっていますが，それに対しての更なる支援というか推進をお願いできないかなと思います。さっき言ったようにハード的なものもあるんですけど，ソフト的なところもあると思います。決して全部が変化，移行するというわけではないんですけど，教育のあり方の面では，我々は既に良い場を持っているんじゃないかなと考えられます。

それから実はこの大綱には人材の「材」を財産の「財」としています。この点に関して，どういう人を育てるかというその本質的なところがあまりまだ議論されていないんではないかなと。いわゆる，いろんな苦況に対してチャレンジできる，新しい取組ができると，それをどのように育てていくかと，それは難しいんですね。そういう場をできるだけ多く持つ，自分でいろんなものを考えて発表して試しにやると。だから教育の場はここまでですよということではなくて，特に地方創生については実証じゃないけど，自分で，例えば小さなお店，レストランでもいいです，企画して，アイデアだけじゃなくて，１週間でも，試しに実践してみるといろんなことが分かるわけですね。法律の問題があるし，人を集めるにはどうしたらいいかとか。１人ではできませんので，ネットワーク，人のコミュニケーションが必要と。そういうような多様なところがありますので，そういう実践の場というかそういったものも用意する必要があるのかなと思います。

それで教育はある意味で当然お金がいるわけですけど，ここではあまり議論されてないと思います。教育委員会での予算をどうするかということはあるんですけど，もう少し大きな意味で，徳島県の教育に力を入れると。当然予算も必要になると。それは国，ないしは県の予算だけではなくて，今はクラウドファンディングとかありますので，企業さんにも教育に対して，ＣＳＲの一環として，基金に入れていただくような仕組みを提案できないかなという気がします。会社としては，何のために会社があるかというと，やはり地域への貢献があると思いますので，それの受け皿を我々としては積極的に提案できるんではないかなと。今回は政策創造部と一緒ですので，予算の話もですね，県の教育委員会の予算だけでなくて，県全体を含めた予算というのもあるかなと思います。

これはまた別の話題になると思うんですけど。今，高校の区割りの話があります。私，一番気になるのはですね，今競争倍率が１．０４。これはもちろん，浪人生とかそういう人を作らないというのもあると思うんですけど，これが本当に生徒たちのためになっているのかどうか，別の面で言うと，大きな望みをしなければどこでも入れるわけです。だけど，先ほどの話があったように，世の中そうではなくて，中学，高校卒業後，大学，社会となると，ものすごく競争というのがあるというのが現実です。だから，そういった体験の機会を高校までにやっていないというのが本当に良いのかどうか。決して競争を煽るわけではないんですけど，やはり世の中というのはそういう現実もありますので，必ずしも倍率が低いのが良いということではないのではないかと私は思います。

そうしますと，もう１つは公立，私立の問題も実はあるんです。徳島県はご存じのように，公立の割合が全国で１番高いと思います。私立がたった４～５％ですね。私立学校にはまだ定員受入のキャパがあるわけです。もう少しは私立学校に移行すれば，公立学校の定数や県の職員は減ると。つまり私立学校ってそれぞれ建学の精神を持って，特徴があるところもやっているんだったら，そういうところも活かしていくことも考えれば，全体の予算をもっと地域の高校，中学に特徴あるものを支援できるんではないかと。そういうふうな少し全体を含めた予算のあり方というのも考えていいんじゃないかと。これは大綱の話ではないと思いますけど，せっかくのこの機会，政策創造部もおられますので，そういう発言をさせていただきました。以上です。

＜飯泉知事＞

はい，ありがとうございました。

人材の「材」の字ですね。財産の「財」と書くというのが前回だったんですが。まさにそれをどう育てていくのが，これからの教育ではないかと。

そして，大変重要な点をご指摘いただきまして。従来は常にこの実証実験ということをね，これが最先端という話だったんですが。実はそうじゃなくて「実装」ね。今は実際にお店でもやってみると。テストじゃないと。やってみると様々な，いわゆる課題が見えてくるということで。これは私も総務省でこのITの世界をずっとこう作ってきましたので。今審議会の委員をやってるんですが，もう実証実験ダメって言ったんですよ。「実装」だと，とにかく。そして，10年ダメと。５年，できれば３年。そういうことで，今のITの戦略・IoTの戦略は「実装」，そして「３年とか５年」という形にもうなっているんですね。それはもう今松重委員さんが言われたとおりなんですよね。

それとやはり重要になってくるのが，その予算。これは前回の時にも大激論になって，当時の坂口委員さんがね，「予算のないものについては意味がない」と，こう厳しい一言があって。確かにそうなんですよね。これはなぜかというと，徳島の場合は公教育，今おっしゃっていただいたように，つまり公務員の皆さん方がやって

るんですよね。片や私学が少ないということがあって。本当でしたらそうしたところに私学助成という形で振り向けていけば，人件費に比べるとそっちの方がはるかに安い，これは事実のお話なんですよね。それとその点は，高校の競争倍率，こうしたところに出てくると。ただ，日本はこれを既に体験をしているんですね。つまり，かつて京都府が蜷川府政の時にやったんですね，高校全入。確かあの当時はまだまだそんなに子どもさん少なくないですから，全入というのはものすごくショッキング的だと。これは非常に評価を当時されたんですね。しかし，その後何が起こったかというと，京都府では「15の春は大笑い　18の春は大泣き」と。地元に京都大学があって，京都大学に京都の子は行けない，こんな話が当時は言われていましてね。だから我々としてはそうしたものをもうかつて経験をしているところで。しかし，子どもの数が減って選ぶところ，いろんな選びをせんかったら，今や実質上，日本全体が全入の時代になったんですよね。今おっしゃっていただいたように，社会に出ると厳然とその壁が出てくるんですよね。だから今はもう逆に新入社員の皆さんが，なんと半年も持たないんです。確かに，藤本委員さんが言われた，面接でね，打ちひしがれてという話が。我々の時なんかはぼろくそでしたからね。でもそれをなにくそと思ってやっていくという精神も重要なんですが。確かにかつてがそうだったからといって今通用するというわけではなくね。今は逆に家庭でも怒られるということを経験していない子どもさんがたくさんなんで，いきなり怒られちゃうと萎縮しちゃうんですよね。だからそうした点については，その世相というものを理解をしながら良いところを引き出して，でも社会の厳しさといったものをどう理解をしていってもらえるのか，それに対しての抵抗力をつけさせてあげるのかと。こうしたところが大変重要なポイントになってくるんではないのかなと思いますので，今の点については大変重要なご指摘でありますから，公教育，一番品質の高い徳島として今後どうあるべきかというのは，こらはおそらく全国が注目をすることだと思いますので，こうした点については今松重委員さんからおっしゃっていただいた点，また前回坂口さんにだいぶ言われたんだけど確かに入っていないといった点がありますんで，ぜひこの機会に考えていただければと思います。

それでは，総括を美馬教育長さんお願いいたします。

＜美馬教育長＞

なかなか総括になるかどうか。今日，若者クリエイト部会の方々を含めて，教育委員の皆様からたくさんのご提案をいただいたき，非常にありがたい。大綱ができて実質は３年ぐらいなんですが，世の中の動きが非常に早いということでいくつかのキーワードをいただきました。例えば，冒頭の知事からも，幼児教育の無償化，消費税引き上げ，スポーツの世界大会がある，４年後に成年年齢引き下げ等，大綱ができた平成２７年１２月以降にどんどん世の中変わってきている。そういったものに今度の大綱対応していかなければならない。それからこれから先も変わることもあるだろうけど，４年先ぐらいまでを見越した上で，そこに対応した教育をして

いかなければならない。それを新たに盛り込んでいくことの必要性を痛感しました。
　それと先程，松重委員さんからもご指摘いただきましたように今までの検証をする。検証して何が足りないのか，良かった面は継続していく。例えば，今回の近畿総合文化祭もそうなんですが，それをレガシーとしてどう残すのか。検証していくことも非常に大事なんだなといったことにも気付かされました。
　今後，何回か総合教育会議をもっていただいて，大綱を今後作っていく際に，また新たに出てくるものもあると思いますので，我々といたしましては，今後原案等も作っていくんですけども，その中でどんどん新しいもの，思いついたものをお教えいただきますと一つ一つ形になっていくのかなと思っております。
　今日はお一人お一人というわけにはいきませんけども，たくさんのご提案をいただきましたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

＜飯泉知事＞
　どうも今日は本当にありがとうございました。
　今も教育長さんから話がありましたように，これからということになりますので。
　しかし，本当に世の中がおそらく来年の今頃になると「この国は日本か」というような形におそらくなるという時代が来る。それが世界的な動きもね。今のアメリカ，ロシア，あるいは朝鮮半島との関係とか，あるいはイスラム諸国の状況と，あるいはヨーロッパ。今や崩壊をしようとするところがたくさんあるわけでありまして。そうした中の日本ということですので，おそらくこれまで考えていた蛸壺に入るような形でいつまでもこの幸せが続くんだと，今の状況が続くんだなんてことを前提にしているととんでもないミスリードをしてしまうと。なんといっても子どもさんたちは逆に全くの防御ができていないわけなんで，我々がしっかりと防御をしてあげる。その中で自らが伸びていく力を身に付けていただくと。これが我々の役割だということでありますので，我々がいち早くその厳しい外側の概要ですけどね，理解した上でその中の日本だといったことを考えていかないと，とてもとても教育大綱なんてもんじゃないものになってしまうんではないか。厳しいところもあり，逆にいうと今までできなかったことがあえてできるといったものも出てくるんではないかと思いますので，ぜひそうしたところきっちりと咀嚼をしていただいてウィングを広げて，そして取りまとめをしていただければと思いますんでね。どうぞよろしくお願いを申し上げます。
　今日は本当にどうもありがとうございました。

＜山本部長＞
　皆様，長時間にわたりまして熱心なご論議ありがとうございました。
　それではこれをもちまして，第２回目の総合教育会議を終了いたします。
　どうも皆さんありがとうございました。

以上